

はじめに

子育ては生涯学習の原点

子育てについての学びは、個人が生涯の生活の中で、真似して学び、試してやり直しながらい加減の関わりを体得し、形成した育ちの真髄を次世代に引き継いでいく生涯学習の原点といえる創造的過程ではなからうか。

少子化したこの30年、子育て環境は激変し、家庭内での保育体験は激減し、家庭の教育力の衰退や子どもの育ちに危機感をもつ人も多くなった。乳幼児との接触・世話体験が少ない環境の中で育った若い親たちは、幼い子どもの育つ原理や接し方を知らないまま親になる。初めてわが子を抱く日々に一人で直面し、手探りで親として育っていきながら、親子のボタンを掛け合わせる努力を懸命にしている。一方では、習い事や塾などでは早期からの保育や教育の効果が叫ばれ、園では乳幼児期からの認知・非認知能力の開発が急がれ、よりよい養育環境づくりや保護者への教育介入が早まっている。

親子がセットで学べる場の必要性

家庭や親族だけでの子育てには限界があり、社会的支援が求められる時代になってきた。子育て支援、家庭教育、家庭支援はそれぞれニュアンスがやや異なるが、子育て支援がどんなに進んでも、第一次的な子育て環境を整える親や家庭教育の役割はなくなるまいだろう。したがって、子どもの成長とともに子育てについての親の学びは不可欠である。これほど多くの学びの場があっても、子どもの成長とともに変化する親の役割や子育て方法、親子関係の成り立ちなどについて気軽に学べる場はほとんどない。最近ではやっと、保育・教育施設に家庭支援活動が義務付けられ、NPOをはじめとする地域支援の場が家庭や親子の問題発生を予防し、その解決を図るために不可欠な機関になりつつある。

子育て学習が最も必要なのは、家庭保育が中心の3歳未満児の親、なかでも子どもに接した体験の少ない親、そして情報ツールによるコミュニケーション

が格段に増えた若い世代の親である。H教育振興財団では、国の子育て支援が始まる10年以上も前から、親子がセットで保育の場に参加し、親たちとスタッフが子どもの育ちや家庭の子育てについて話し合っただけでなく、その結果を保育実践と子育て研究に役立てるための親子教室を実施してきた。40年に及んだその活動は、公的な子育て支援の拡大とともに残念ながら2015年に終了することになった。

日本の子育て環境は、H財団の親子教室がスタートした1978年頃から徐々に変化してきたが、少子化が社会問題となった1990年代からの変化、とくにこの20年間の変化はすさまじい。「保育園落ちた 日本死ね!!」に象徴される待機児童問題や就労と子育ての両立、虐待やネグレクトに代表されるマルトリートメント（不適切な養育）、イクメン・カジメンという言葉が飛び交う父親の子育て参加の動向などの大人の変化に輪をかけて、子育て環境の変化によって依存と自立・育ちの貧困などの子どもの発達の問題が大きくなってきている。なかでも、年齢に応じた子どもの育ちと親のライフスタイル選択、子育てと仕事のバランスのとり方は、これからの親子にとっての重要な課題になると思われる。

保育実践と研究の蓄積を家庭支援に活かす

書名を「子育ては生涯学習の原点―親キャリアをアップする支援」としたのは、H教育振興財団の親子教室で、40年の保育と親教育の実践・研究活動に関わった経験から得た知見を、これからの親の学習や家庭支援に活かしてほしいと願うからである。机上の研究とは異なり、日々親子と家族ぐるみで時空を共にし、その子育てに参加する機会をいただいた経験から、人生早期の0～4歳児とその両親との共同作業の中から生まれた実践と研究の事例やデータからの生きた知見は、必ず日々の子育て学習に役立つと信じている。

乳幼児は一生懸命に自己表現をしながらその生命を生きており、その動きや表情、視線や声の調子によるコミュニケーションで、小さいけれども一人の人間としてさまざまな情報を発してくれた。家族や家庭、子育て環境の変化にとまどい、ワンオペ育児に迷い悩みながらも懸命に子育てに取り組む子育て中の

母親たちとは泣き笑いを共にしながら、生涯発達から見た子育ての意味について考える時空を共有した。父親モデルのない時代に育った働き盛りの父親たちは、子育て負担感と達成感を交錯させつつ、多忙な中でも子育てに取り組み、家族や子どもの将来像を描いていくようであった。

約40年に親子セットで参加し学び合った約1万組の家族には、週1回、1年間の教室参加の中で多くの実践や研究にご協力いただいた。親子遊び調査のための5分間ビデオ収録、毎回の教室参加時の母子分離観察調査、子どもの発達調査や子育てに関する質問紙や面接調査、早期教育やメディアが子どもの発達におよぼす実態調査など、多くの調査研究に記名入りで協力していただいた。さらには、修了後の幼稚園適応調査や14年後の思春期、26年後のプレ成人期の追跡調査など、長期間のご協力をいただくことになった。

親子参加の保育実践と親子から得られた貴重なデータを丁寧に分析し、その成果を今後の家庭支援や家庭教育に活かしていただくことが最大のご恩返しと思ひ、一般化したエビデンスとして記述しておきたいと考えたのが出版の意図である。参加された親子の方々、親子教室を長年支えてくださったH教育振興財団の方々、ともに働いた同僚の皆さん、さまざまな支援をしてくださった研究者の皆様に感謝申し上げたい。

本書の構成

本書では、筆者が主として担当した保育実践と子育て研究・データ分析との循環から学んだ知見を易しく紹介することに努めている。記述に際しては、研究論文としてよりも、親のキャリアアップをめざしている親自身と子育てや家庭支援活動に取り組んでいる皆さんに役立つよう、細かい数値を省略して簡潔に結果だけを表示するよう努めた。本書の構成は以下のとおりである。

第1章では、40年間に保育・教育実践の場に参加した親子・家族の成長を通して、大勢の子どもの中でわが子の個性を発見し、両親の存在の影響に気づき、生涯にわたる家族・親子関係について親として学ぶ意味を考える。

第2章では、就学後の学びの土台となる非認知能力開発への関心が保育場面で高まる昨今、早期の文字獲得方法が幼児期の発達に与える影響調査から、早

期から教え込むパターン教育の効果と問題点に言及する。

第3章では、幼児期・思春期・プレ成人期の30年間にわたる自己像の発達の連続性と変化に関する縦断調査から、幼児期の子認知能力の発達とその後の自己像形成との関連、ならびに各時期の発達に及ぼす要因について紹介する。

第4章では、初めの3年間の子どもの発達に与える父親参加の効果について、とかく薄いといわれる父親存在が家族関係形成に与えている見えない事実を、データによって明らかにする。

第5章では、幼稚園児の母親の過去の乳幼児との接触・保育体験の量と質が、日々の子育てに与えている影響をデータで示し、さらに親予備軍である十代女子学生と男女中学生の保育実習体験効果を通して、次世代の親準備性育成の方法について考える。

第6章では、乳幼児の母親と子育て支援者間の子育て支援に対するギャップ調査から、両者の共通ニーズに注目し、土台となる人生早期の保育がもつ意味と親キャリアをアップする学びについて述べた。そこから、親の自己実現と幼い子どもが安定した集団参加を経験できるような親子関係の調整を提案した。

第7章では、親を子育ての主体として巻き込んで育てる子育て先進国の考え方や支援法を学び、親子の生涯発達の観点と次世代育成を視野に入れて、保育の場を媒介にした育てる者の養育力・主体性を培う支援を提案する。

年代がやや古くなった調査もあるが、子育ての現代的課題とリンクさせて言及するように努めて執筆した。ご批判とともに、家庭の子育てや保育現場での支援の手がかりにいただければ、ありがたいと思っている。

中野 由美子

子育ては生涯学習の原点
—親キャリアをアップする支援—

目 次

はじめに	i
------	---

第1章 子育て支援と家庭教育	1
-----------------------	----------

第1節 家庭教育支援から子育て支援へ	1
--------------------	---

家庭教育支援の時代 1960年～1990年ころ／子育て支援の時代 1990年～2005年ころ／家庭支援の時代へ 2005年以降／子育て支援の拡大と家庭教育の強調

第2節 家庭教育・家庭支援の実践例 — 親子同時参加教室40年の取り組み —	5
--	---

親子同時参加教室の学び／両親教室の体験的学びのプログラム／親子同時支援のプロセスと効果／親子同時支援者の役割

第2章 遊びから学びへの発達 — 乳幼児期教育を考える —	11
--------------------------------------	-----------

第1節 識字認知と幼児期発達のバランス	11
---------------------	----

識字認知法と幼児の発達の姿／文字との2つの出会い方 — 「体験型」と「パターン型」／「体験型」の幼児の特徴／「パターン型」認知法／「パターン型」の幼児の特徴／「パターン型」の親の特徴

第2節 「パターン型」と「体験型」の発達を比較する	17
---------------------------	----

「体験型」と「パターン型」の発達プロフィールの違い／「体験型」と「パターン型」の幼稚園生活／先取り不安が高い「パターン型」の親たち

第3節 遊びから学びへの育ちの接続	22
-------------------	----

幼児期の終わりまでに育ってほしい発達の姿とは／期待される遊びと学びをつなぐ保育／遊びと学び、学習の接続

第4節 育ちの接続への園・学校・教師と家庭・親の連携	26
----------------------------	----

遊び、遊びこむことから自己学習へ／育ちの接続への園・学校・教師の役割

第3章 幼児期・思春期・プレ成人期の連続性と変化	31
---------------------------------	-----------

第1節 非認知能力への関心	31
---------------	----

幼児期の「非認知能力」への高まる関心／非認知能力とはなにか

第2節 幼児期・思春期・プレ成人期の追跡調査にみる自己像の発達	35
---------------------------------	----

(1)	縦断調査研究の目的と方法	35
	調査手続きと使用尺度／幼児期発達の指標—母子分離4型／思春期・プレ成人期発達の指標—自己像コンピテンス評定	
(2)	幼児期と思春期の発達に関連はあるか	39
(3)	幼児期とプレ成人期の発達に関連はあるか	41
(4)	思春期とプレ成人期間の発達速度の違い	42
(5)	思春期・プレ成人期の「認知能力」に差はあるか	43
第3節	ケース分析—幼児期・思春期・プレ成人期の発達の特徴	43
(1)	3歳～30歳ころまでの5時期の発達像	43
第4節	幼児期・思春期・プレ成人期の連続性と変化	50
	幼児期とその後の発達との連続性／各発達段階の自己像に影響する主要因／幼児期の母子分離型は、環境適応力の個人差	
第4章	初めの3年間の子どもの発達と父子関係	55
第1節	父親参加が3歳児の発達に与える影響	55
	幼児の発達への父親の影響を確かめる／3歳児の発達評定と父親調査の内容／発達の良い3歳児と悪い3歳児の父子関係／3歳児の発達と父子関わりとの関連／3歳児の発達と父親意識・父親の生活実態	
第2節	母子の距離を調節する父親役割	60
	母子分離の4段階／母子分離度に影響する父子関わり／母子分離度に影響する父親意識	
第3節	就寝形態（寝方）からみた父親の存在	63
(1)	就寝形態は家族関係を可視化するものさし	63
	就寝形態は父親の位置で決まる？／家族の寝方は幼児の発達に影響する？／就寝形態（寝方）の分類法／寝方4類型と家族関係・家庭の雰囲気	
(2)	データにみる就寝形態と家族関係	66
	就寝形態と家族の属性／就寝形態と父子関係／就寝形態と夫婦関係／就寝形態と母子関係	
(3)	就寝形態と幼児の発達	69

寝方と幼児の発達イメージ／データに見る寝方と幼児の発達／母子間の心身の距離と幼児の発達／幼児の発達には父子別室寝より同室寝がよい

- (4) 家族関係を可視化する就寝形態 75

第5章 乳幼児接触・保育体験の子育てへの影響 …………… 79

子どもが忌避される時代

第1節 幼稚園児の母親の接触・保育体験と子育て 80

親になる前後の接触体験／親になってからの子育て観／過去の接触体験と現在の子育て観との関連／豊富な接触体験は「子ども中心子育て」につながる／接触体験不足は「親中心の子育て」につながりやすい

第2節 十代女子の保育体験と幼児イメージの変化 84

接触体験と幼児イメージ／接触体験が幼児イメージに与える影響／保育実習体験による幼児イメージの変化／次世代の養育力を育てる保育実習体験とは

第3節 男女中学生の幼児イメージ形成と保育実習体験の効果 89

- (1) 中学生の生育体験と子ども観 89

男女中学生の生育体験の性差／保育実習以前の中学生の子どもへの関心／男女中学生の生活と幼児イメージの形成

- (2) 保育実習体験の効果と影響要因 92

保育実習は否定的イメージを減少させる／男女中学生の否定的イメージ変化に与える要因／男子中学生の育児観に影響する家庭の性別役割観／女子中学生には子育て負担感を先取りさせない体験が必要

第6章 子育ては生涯学習の原点—生命をみつめ、関係を紡ぎ、次世代につながる学び— …………… 98

第1節 親と支援者の子育て支援観のギャップ 98

- (1) 余裕がほしい親と養育力向上を求める支援者 98

親と支援者のギャップは埋まったか／育児期にほしい支援は同じ

- (2) 親と支援者の子育て行動・意識を比較する 101

親の意識・行動の背景にあるもの／母親の行動・意識は年齢・仕事の有無・子ども数で異なる／支援者の年齢によって母親評価は異なる

第2節	子育てと仕事志向の葛藤	108
(1)	葛藤する子育てと仕事の両立	108
	感情労働化する子育て／ライフスタイルの多様化と親子の生活リズムのズレ	
(2)	異文化としての乳児期の子育て	112
	乳児が育つプログラムの特殊性／発達の土台となる3つの発達課題／子育てと仕事の調整感覚を養う	
(3)	子どもの育て直しと親性を引き出す支援	116
	乳幼児期の育ちと育て直し／親性を引き出す家庭支援	
第3節	親キャリアをアップするための学び	119
(1)	子育て科学に学ぶ	120
	わが子の個性に気づくー行動遺伝学に学ぶ／親子の関係性に気づくー気質理論に学ぶ／世代間伝達から生まれる親の個性	
第7章	親キャリアをアップする支援	125
第1節	親を主人公にした支援づくり	125
(1)	子育て先進国の支援に学ぶ	125
(2)	体験的学びによる養育力向上支援の必要性	127
	子育て当事者性を尊重した支援づくり／子育て支援拠点事業・ひろばによる親子支援／保育・教育施設と専門機関による家庭支援	
(3)	親の子育て協働者としての支援者づくり	130
第2節	子育て支援理論に学ぶ	133
(1)	予防教育としての心理教育の活用	133
(2)	集団参加・集団学習（グループワーク）の効果	134
(3)	エンパワメント理論に基づく家庭支援	135
第3節	親キャリアをアップする支援	137
	予防的支援と次世代育成支援／保育の社会化と家庭支援／専門家による教育支援	
おわりに		141